

2012年度・公式規則変更内容・決定報

(全7頁)

日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会



アメリカンフットボール公式規則を以下のように変更します。

[1] 2012年度・公式規則変更主要項目の解説 は、今年の公式規則変更を簡潔に解説したものです。

[2] 2012年度・公式規則変更 は、主要変更項目に関わる条文および主な編集上の変更内容を掲載したものです。この公式規則変更は2012年秋季公式戦より適用します。

[1]2012年度・公式規則変更主要項目の解説

2012年度の公式規則変更主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる公式規則の、2011～2012の公式規則・公式規則解説書における主たる「篇一章一条」を表します。

(1) キックオフ時のキックチームの制限線の変更

☆ 従来、キックオフ時のキックチームの制限線は自陣の30ヤードラインであった。

★ 本年より、キックオフ時のキックチームの制限線は35ヤードラインとなる。セーフティ後のフリーキックの制限線は20ヤードラインのままである。 (6-1-1)

(2) フリーキック時のAチームのプレーヤーに対する制限の追加

☆ 従来、ボールがキックされる時、プレースキック時のホルダーとキッカーを除くAチームのプレーヤーは、ボールの後方にいなければならないという規定のみで、後方(自陣のエンドゾーン側)への制限はなかった。

★ 本年より、レディ・フォー・プレーの後、キッカーを除くAチームのプレーヤーは、制限線から後方5ヤード以内のインバウンズにいなければならない。片足が制限線の手前5ヤードのラインを踏むか越えていれば、反対側の足が手前であっても正当である。不正なフォーメーション。5ヤードの罰則。 (6-1-2)

(3) フリーキックがタッチバックとなった後のボールの位置の変更

☆ 従来、すべてのタッチバックの後には、そのゴールラインを守っていたチームの20ヤードラインにボールは置かれた。

★ 本年より、フリーキックがタッチバックとなった後は、そのゴールラインを守っていたチームの25ヤードラインにボールは置かれる。その他の場合は、従来通り20ヤードラインにボールは置かれる。(8-6-2)

(4) フリーキックをキャッチする機会の保護条項に関する条件の追加

☆ 従来、キックがグラウンドに触れたときに、キックをキャッチする機会に関する保護条項は終了した。

★ 本年より、フリーキックにおいて、キック直後にグラウンドに一度だけ触れて、空中に上がったボールをレ

シーブしようとするプレーヤーは、キックがそのまま空中に上がった場合と同様に保護される。(6-4-1)

(5) 腰より下のブロックの制限の追加

- ☆ 従来、キックを除くスクリメージ・ダウンにおけるチーム確保の変更の前、Aチームのプレーヤーによる、自陣のゴールラインの方向への腰より下のブロックに関する規定はなかった。
- ★ 本年より、キックを除くスクリメージ・ダウンにおけるチーム確保の変更の前、すべてのAチームのプレーヤーは、ニュートラル・ゾーンを越えた地点で自陣のゴールラインの方向への腰より下のブロックをしてはならない。(9-1-6)

(6) 腰より下のブロックの制限を受けるプレーヤーの規定の追加および定義の変更

- ☆ 従来、キックを除くスクリメージ・ダウンにおけるチーム確保の変更の前、攻撃側の制限を受けるプレーヤーは、ノースサウス・ラインあるいはスナップ時の自分に近いサイドラインの方向への腰より下のブロックは許されるという規定のみであった。
- ★ 本年より、制限を受けるプレーヤーは、タックル・ボックスの内側のエリアでは、いかなる方向に対しても腰より下のブロックは禁止となる。また、制限を受けるプレーヤーの定義は以下のとおりとなる。
 - a) 中央のラインマンから7ヤードより離れているラインマン。(変更なし)
 - b) タックル・ボックスの外側に完全に体のフレームが出ているか、スナッパーから2番目のラインマンの体のフレームの外側に完全に体のフレームが出ているバック。
 - c) スナップ時にモーションをしていて、レディ・フォー・プレーからスナップまでの間の連続したモーション中に、上記b)で規定されたエリアの外側に位置したことがあるプレーヤー。したがって、b)のエリア内のみでモーションをしていたプレーヤーや、b)のエリア内で一旦静止し、その後のモーションがエリアの外に出ていないプレーヤーは、制限を受けないプレーヤーとなる。(9-1-6)

(7) Bチームのプレーヤーによる腰より下のブロックの制限の変更

- ☆ 従来、キックを除くスクリメージ・ダウンにおけるチーム確保の変更の前、ボールがニュートラル・ゾーンを5ヤード越えるまでの間は、Bチームのプレーヤーによる腰より下のブロックは許された。(2011年8月17日発行、公式規則公報14号、No.3)
- ★ 本年より、キックを除くスクリメージ・ダウンにおけるチーム確保の変更の前、ニュートラル・ゾーンの前後5ヤードでサイドラインまで延長されたエリアのみで、Bチームのプレーヤーは腰より下のブロックをしてもよい。ただし、従来同様に、バックワード・パスを受けようとする位置にいる攻撃側のプレーヤーに対して、腰より下のブロックをしてはならない。また、ボールあるいはボールキャリアに向かおうとする場合を除き、ニュートラル・ゾーンを越えた位置にいるAチームの有資格レシーバーに対して、腰より下のブロックをしてはならない。(9-1-6)

(8) プレーヤーのヘルメットが脱げたときの規定の追加

- ☆ 従来、ボールキャリアのヘルメットが完全に脱げた場合に、ボールデッドとなるのみで(参照:4-1-3-q)、それ以外のプレーヤーについての規定、および次のダウンの参加に対する制限等はなかった。

★ 本年より、プレーヤーのヘルメットが完全に脱げた場合、以下の規定が追加となる。

- A. ダウン中にプレーヤーのヘルメットが完全に脱げたとき、相手側の反則の直接の結果による場合を除き、ダウンが終了したときに計時停止となり、当該プレーヤーは最低1ダウンは試合から離れなければならない。ヘルメットが脱げたことのみによって計時停止となった場合、次の条件が加えられる。
1. 前後半残り時間が1分以上の場合、レフリーのシグナルでゲーム・クロックは計時開始となる。プレー・クロックは、そのプレーヤーが攻撃側であれば25秒、守備側であれば40秒にセットされる。
 2. 前後半残り時間が1分未満の場合、相手側のチームは「10秒減算」を選択することができる。その場合、プレー・クロックは25秒にセットされ、レディ・フォー・プレーで計時開始となる。当該チームにタイムアウトが残っていれば、タイムアウトを使うことで「10秒減算」を避けることができる。
- B. ライブボールでボールキャリア以外のプレーヤーのヘルメットが完全に脱げたときは、直後の継続した動きを除き、当該プレーヤーがそれ以上プレーに参加することはパーソナル・ファウルの反則となる。そのダウン中に再びヘルメットを着用しても参加できない。このプレーヤーは明らかにプレーから離れたプレーヤーとして扱われる。(参照:9-1-12-b)
- C. ダウン中に意図的にヘルメットを脱ぐことはスポーツマンらしからぬ行為の反則となる。

(3-2-4、3-3-2、3-3-9、9-1-17、および9-2-1)

(9) パント時の守備側のリーピングの制限の追加

★ 従来、パント時の守備側のプレーヤーのリーピングに対する規定はなかった。

★ 本年より、パントをブロックするために、守備側のプレーヤーはタックル・ボックス内で相手プレーヤーを飛び越えようとしてジャンプしてはならない。パーソナル・ファウルの反則となる。

1. 相手プレーヤーを飛び越える意図なく、垂直にジャンプすることは反則ではない。
2. 相手プレーヤーの隙間(ギャップ)を跳び越える行為は反則ではない。

(9-1-11)

(10) キックをキャッチする機会の妨害となる条件の追加

★ 従来、インバウンズにいるレシーブチームのプレーヤーに対するキックをキャッチする機会の妨害について、Aチームのプレーヤーが侵入してはいけない領域は定められていなかった。

★ 本年より、レシーバー(リターナー)がボールにタッチする前に、Aチームのプレーヤーが、レシーバーの両肩の幅で正面1ヤードのエリアに侵入した場合も、キックをキャッチする機会の妨害の反則となる。疑わしい場合は、反則である。

(6-4-1)

(11) 不正なバッティング、不正なキッキングの罰則距離の変更

★ 従来、不正なバッティングおよび不正なキッキングの距離罰則は15ヤードであった。

★ 本年より、不正なバッティングおよび不正なキッキングの距離罰則は10ヤードとなる。

なお、本項目は、2011年度・公式規則変更決定報で、2011年度・NCAA 公式規則変更項目として参考掲載した項目である。

(9-4-1、2、3、4)

(12) 無防備なプレーヤーの定義の変更

☆ 従来、レシーバーを探しているクォーターバックは無防備なプレーヤーとして定義されていなかった。

★ 本年より、2-27-14-aを「ボールを投げようとしている、あるいは投げ終わった直後のプレーヤー。」と言う表現に変更し、従来の「ボールを投げている途中、あるいは投げ終わった直後」に加え、「レシーバーを探しているプレーヤー」も無防備なプレーヤーとしての定義に加える。

なお、本項目は、2012年度・公式規則変更予定報には未記載であるが、選手の安全に関わる重要事項として、本決定報から記載するものである。 (2-27-14)

[2]2012年度・公式規則変更

2012年度・公式規則変更内容の主要変更項目に関わる条文および主な編集上の変更内容は次のとおりです。

この公式規則変更は2012年秋季公式戦より適用します。記載は、次の規則に従っています。

- ① 「篇一章一条」の後の(新規)、(追加)、(変更)、(削除)、(移動)は()内の事項が行われた事を示し、それに続く規則文は新変更文である。なお、新規、追加、変更の各用語は次の原則で使用する。
新規: 篇一章一条、あるいはその下位の項目の単位で、新規に条文が定められた場合。
追加: 文の単位で新たに条文が定められた場合。
変更: 一つの文の中で、条文の変更(単語等の追加を含む)が定められた場合。
なお、新規、追加、変更、削除等が混在する場合は、変更として扱う。
- ② 下線部は、変更、追加が行われた場合にその部分を示す。削除に関しては削除された部分を《 >で囲み、削除文字上に二重線を引いてある。
- ③ 新規の条文の発生、および削除に連動した既存の「篇一章一条」およびその下位の項目の番号の変更に関しては、原則として、この決定報に記載していない。
- ④ 他の規則との関係、見易さの向上等のため、競技規則の変更がない場合も、多くの記載場所、編集上の変更を行っている。異なる篇へ記載が変わった場合について、(移動)と記し、【注:.....】という形式で内容を記載している。

2-12-10 (新規) 近いサイドライン

- a. スナップ時に静止している、あるいはモーションしているプレーヤーの近いサイドラインは、中央のラインマンあるいはスナッパーに対して、外側のサイドラインである。
- B. スナップ時にスナッパーの後方でモーションしており、いずれのサイドラインが外側か明確でないプレーヤーの近いサイドラインは、そのプレーヤーがモーションしている方向のサイドラインである。

2-27-14-a (変更) ボールを投げようとしている、あるいは投げ終わった直後のプレーヤー。

3-2-4-c-12 (新規) ダウン中に攻撃側のプレーヤーのヘルメットが完全に脱げた場合。守備側のプレーヤーのヘルメットが完全に脱げた場合は、プレー・クロックを40秒にセットする。

(例外: 前後半いずれにおいても10秒減算の選択がある場合には、いずれのチームのプレーヤーに対してもプレー・クロックは25秒にセットする。)

3-3-2-e-16 (新規) ダウン中にプレーヤーのヘルメットが完全に脱げた場合。

3-3-9 (新規)

ヘルメットが脱げた場合-タイムアウト

- a. ダウン中にプレーヤーのヘルメットが完全に脱げたとき、相手側の反則の直接の結果による場合を除き、そのプレーヤーは、次のダウンは試合から離れなければならない。ゲーム・クロックは、ダウン終了時に計時停止となる。
- b. ヘルメットが脱げたことのみによって計時停止なった場合、以下の項目が適用される。
 1. 前後半残り時間が1分以上の場合、プレーヤーが攻撃側であれば25秒、守備側であれば40秒にプレー・クロックはセットされる。レフリーのシグナルでゲーム・クロックは計時開始となる。
 2. 前後半残り時間が1分未満の場合、相手側のチームは「10秒減算」を選択することができる。その場合、プレー・クロックは25秒にセットされる。10秒減算が選択された場合、レフリーのシグナルで計時開始となる。10秒減算が選択されなかった場合、スナップで計時開始となる。タイムアウトが残っていれば、タイムアウトを使うことで10秒減算を避けることができる。両チームのプレーヤーのヘルメットが脱げた場合には、10秒減算は選択できない。
- c. a項(上記)の状況でボールキャリアのヘルメットが脱げたとき、ボールはデッドとなる。(参照:4-1-3-q) プレーヤーがボールキャリアでないとき、ボールはライブのままであるが、そのプレーヤーは、直後の継続した動きを除き、プレーへの参加を続けてはならない。それ以上の参加はパーソナル・ファウルの反則である。(参照:9-1-17) そのダウン中に再びヘルメットを着用しても参加できない。定義によりそのようなプレーヤーは明らかにプレーから離れたプレーヤーとして扱われる。(参照:9-1-12-b)
- d. ダウン中に意図的にヘルメットを脱ぐことはスポーツマンらしからぬ行為の反則となる。(参照:9-2-1-a-1-(i))

6-1-1 (変更)

罰則による移動がない限り、キックオフ時のキックチームの制限線は自陣の35ヤードラインであり、セーフティ後のフリーキックの制限線は自陣の20ヤードラインである。

6-1-2-b (新規)

ボールがレディ・フォー・プレーとなった後、キッカーを除くAチームの全てのプレーヤーは制限線の後方5ヤードよりも手前にはならない。プレーヤーの片足が、制限線の手前5ヤードのライン上またはそれを越えていれば、そのプレーヤーはこの規定を満たしていることとなる。1人のプレーヤーが制限線の後方5ヤードの手前にいた場合、他のプレーヤーがボールをキックすれば反則である。[S19]

6-1-7-b (新規)

フリーキックの結果がBチームのタッチバックとなったとき(参照:8-6)、Bチームの25ヤードラインからBチームによってプレーに移される。

6-4-1-a (新規)

レシーバーがボールにタッチする前に、Aチームのプレーヤーが、レシーバーの両肩の幅で正面1ヤードのエリアに侵入した場合は、妨害の反則となる。疑わしい場合は、反則である。

- 6-4-1-e (新規) フリーキックにおいて、ボールをレシーブできる位置にいるレシーブチームのプレーヤーは、ティーからキックされたボールが直後にグラウンドに一度だけ触れて、そのまま空中に上がった場合は、キックされたボールがティーから空中に上がった場合と同様に、ボールをキャッチする機会とフェアキャッチの保護条項が与えられる。
- 6-4-1-f (新規) ターゲティングの反則(参照:9-1-4)あるいは他のパーソナル・ファウルとなるAチームによる接触があり、レシーバーがキックをキャッチする機会を妨害された場合は、キックをキャッチする機会の妨害あるいはパーソナル・ファウルのどちらかで判定してもよい。15ヤードの罰則は、次にBチームの所属となるボールの地点または反則地点から、Bチームの選択によって施行される。その反則が、通常は資格没収となるような行動を伴う場合には、反則をしたプレーヤーは試合から離れなければならない。
- 8-6-2 (追加) タッチバックが宣告された後は、そのゴールラインを守っていたチームの20ヤードラインで、そのチームのボールとなる。ただし、フリーキックがタッチバックとなった場合は、そのゴールラインを守っていたチームの25ヤードラインで、そのチームのボールとなる。(参照:6-1-7)
(以下、省略)
- 9-1-6 (変更) 腰より下のブロック
以下の記載で許された場合を除き、腰より下のブロックをしてはならない。(ボールキャリアに対する場合を除く)(参照:2-3-2)(A.R.9-1-6-I~VII)
- a. スクリメージ・ダウン
1. チーム確保の変更の前、ニュートラル・ゾーンを越えた地点にいるすべてのAチームのプレーヤーは、自陣のゴールラインの方向へ腰より下のブロックをしてはならない。疑わしい場合、ブロックは自陣のゴールラインの方向へのブロックとする。
 2. チーム確保の変更の前、以下のAチームのプレーヤーは、腰より下のブロックに関して、制限を受けるプレーヤーである:
 - a) スナップ時に中央のラインマンから7ヤードより離れているラインマン
 - b) スナップ時にタックル・ボックスの外側に完全に体のフレームが出ているか、スナッパーから2番目のラインマンの体のフレームの外側に体のフレームが完全に突出しているバック
 - c) スナップ時にモーションをしていて、レディ・フォー・プレーからスナップまでの間の連続したモーション中で、上記b)に記載された外側の位置にいたことがあるバック。
注:規定されたエリアの内側でセットし、その後の継続したモーションが上記のエリアの外に出ていないバックは、制限を受けるプレーヤーではない。(参照:9-1-6-a-4)
 3. 制限を受けるプレーヤーは、タックル・ボックス内にいる相手のプレーヤーに対して腰より下のブロックをしてはならない。タックル・ボックスの外側では、近いサイドラインから離れる方向に腰より下のブロックをしてはならない。ノースサウス・ラインの方向(参照:2-12-9)あるいは近いサイドラインの方向には腰より下のブロックをしてもよいが、ニュートラル・ゾーンを越えた位置で自陣のゴールラインの方向に行ってはならない。(参照:9-1-6-a-1)
 4. その他のAチームのプレーヤーは制限を受けないプレーヤーであり、上記a-1を除き、腰より下のブロックをしてもよい。特に、スナップ時にモーションをしていて、レディ・フォー・プレーからスナップまでの間に上記b)に記載された外側の位置にいたことがないプレー

ヤーも制限を受けないプレーヤーである。

5. チーム確保の変更の前、Bチームのプレーヤーはニュートラル・ゾーンの前後5ヤードでサイドラインまで延長されたエリアのみで腰より下のブロックをしてもよい。そのエリア以外で行われたBチームのプレーヤーによる腰より下のブロックは不正である。
6. Bチームのプレーヤーは、バックワード・パスを受けようとする位置にいる相手側のプレーヤーに対して、腰より下のブロックをしてはならない。
7. Bチームのプレーヤーは、ボールあるいはボールキャリアに向かおうとする場合を除き、ニュートラル・ゾーンを越えた位置にいるAチームの有資格レシーバーに対して、腰より下のブロックをしてはならない。この禁止条項は、規則によりフォワード・パスが不可能となったときに終了する。

b. キック

フリーキックまたはスクリメージ・キックのダウン中、ボールキャリアに対する場合を除き、すべてのプレーヤーによる腰より下のブロックは不正である。

c. チーム確保の変更

チーム確保の変更後、ボールキャリアに対する場合を除き、すべてのプレーヤーによる腰より下のブロックは不正である。

- 9-1-11-b (変更) 明らかにフィールドゴールやトライをブロックしようとしてニュートラル・ゾーンの前方から走ってきて、ニュートラル・ゾーンの前方でリーピングした(前方に跳んだ)守備側のプレーヤーは、いかなるプレーヤーの上にも降りてはならない。
- 9-1-11-c (新規) パントをブロックするために、守備側のプレーヤーはタックル・ボックス内で相手プレーヤーを飛び越えようとしてジャンプしてはならない。
1. 相手プレーヤーを飛び越える意図なく、垂直にジャンプしてパントのブロックを試みることは反則ではない。
 2. 相手プレーヤーの隙間(ギャップ)を飛び越える行為は反則ではない。
- 9-1-17 (新規) ヘルメットが脱げたプレーヤーのプレーへの参加
ダウン中に、ヘルメットが完全に脱げたプレーヤーは、直後の継続した動きを除き、プレーへの参加を続けてはならない。そのダウン中に再びヘルメットを着用しても参加できない。
- 9-2-1-a-1-(i) (新規) ライブボール中に意図的にヘルメットを脱ぐこと。
- 9-4-1~4 (変更) 罰則: 10ヤード。
- 10-1-4 (変更) 両チームのライブボール中の反則がレフリーに報告された場合、これらの反則はオフセッティング・ファウルであり反則は相殺され、ダウンを繰り返す(A. R. 10-1-4-I およびVIII)。

以上